

ジェノサイド後の分断社会における 和解と共生の可能性と不可能性 —スレブレニツァを事例に、『犠牲 者意識ナショナリズム』の視点から

2023 年 2 月 28 日（火）14:00～17:00

立教大学池袋キャンパス、8101 教室

対象:本学学生,教職員,校友,一般市民(要申し込み)

1995 年 7 月ボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争末期に発生したセルビア人勢力によるイスラム教徒の成人男性に対する集団殺害事件は、国際刑事・国際司法裁判所 (ICTY, ICJ) から、唯一「ジェノサイド」として認定された象徴的な事件です。ウクライナ戦争においても、同国防省がブチャの惨劇を前に「新たなスレブレニツァ」と公式 SNS で発信したことで知られます。

本シンポジウムは、科研費基盤研究 (C)「ジェノサイド後の分断社会における和解と共生の可能性—スレブレニツァを事例に」(20K12332 研究代表者:長 有紀枝)の総括として、昨年『犠牲者意識ナショナリズム』の邦訳版を出版した林 志弦 (イム・ジヒョン) 韓国・西江大学教授をお招きし、ポスト・ユーゴ地域を専門とするロンドン大学のドラゴヴィチ=ソーソ教授をはじめ内外の専門家、研究者とともに、ジェノサイド後の分断社会の和解や共生、記憶の政治について多角的に検討するものです。(日英同時通訳付)。

講師

林 志弦氏 (韓国・西江大学教授): 基調講演 「犠牲者意識ナショナリズムを超えて」

ヤスナ・ドラゴヴィチ=ソーソ氏 (英国・ロンドン大学ゴールドスミス校政治国際関係学部教授) オンライン参加 “Srebrenica and ‘coming to terms with the past’ in the post-Yugoslav region”

長 有紀枝 (立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科・社会学部教授) 「スレブレニツァをめぐる記憶の戦争」

橋本 敬市氏 (国際協力機構 (JICA) 国際協力専門員・平和構築担当) 「2021 年 7 月の上級代表 (OHR) によるジェノサイド否定を処罰するボスニア刑法改正とその背景」

クロス京子氏 (京都産業大学国際関係学部教授) 「誰が正当な『被害者』か—補償をめぐる分断と政治化」

主催:立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科・社会デザイン研究所

協力:特定非営利活動法人難民を助ける会 (AAR Japan) / 科研費基盤研究 (B) 「旧ユーゴスラヴィア地域における民族を超えた文化の学際的研究:紛争後 30 年を経て」(21H03710 研究代表者 神田外語大学鈴木健太)

問合せ:スレブレニツァシンポジウム事務局 (長研究室): info.jindo@rikkyo.ac.jp

申し込み先: <https://forms.gle/fE3NSynMJAqo9dD87>

申し込みはこちらから →

